



# 絆 きずな



令和6年12月13日発行

生徒の皆さん、11月26日(火)の人権講話はいかがでしたか? 大変寒い中でしたが、ホロコーストの歴史を通して人権について“主体的”に考える良い機会だったと思っています。

沢山寄せられたものから少しだけですが、同じ学校にいる仲間が書いてくれた講話の感想を両面にわたって掲載します。世界のこと、戦争のこと、人権のこと…ともに考える仲間にも恵まれたことを誇りに思います。



## 人権 LHR の感想

戦争がダメなのは沢山の人から言われてきたし考える機会もあったけど、その背景までをじっくり考えて、疑問を持つ、ということがあまりなかったので、とても良い経験になったなと思いました。私が出した疑問は、戦争では国民は偉い人に逆らえない状況にあるけど、そんな人を国の代表に選んでしまうのはなぜか、というものです。国の代表に選んでしまったことが、国民に戦争の責任がある理由の一つでもあるのかなと思いました。自分が選挙権をもつ年齢になったら、投票する人をよく考えて、なんとなくの印象などで決めずに、選ぶ人によって自分の将来が変わることを頭に入れておいて、投票したいと思いました。

私はもともとアウシュヴィッツに少し興味があり、過去に YouTube でアウシュヴィッツ収容所の動画を見ていたので、今日の講話はとても有意義な時間でした。話の終盤に講師の方から「なぜアウシュヴィッツは世界遺産となり、毎年約220万人の人が訪れるようになったのか?」という問いがあり、私もなぜ過去に YouTube で動画を調べたのか思い返してみたところ、私は「今もあるアウシュヴィッツという場所で本当に110万人も人が虐殺されたのか?」という疑問が自分の中であつたからだとして今日実感しました。今日の講話を通して、どんなことにも疑問を持つことが大事だとわかったので、今後意識したいと思います。

僕は世界史を選択しています。今まで世界史という教科を受験勉強のためと思い勉強していました。アウシュヴィッツ強制収容所をはじめ様々な凄惨な政策、戦争などをただの点を取るための単語としか捉えていませんでした。そんな中この講話があり僕の中の世界史の在り方が受験勉強だけでなく一つの我々が必ず知るべき学問というものに変化しました。もし大学生になったらアウシュヴィッツだけでなく今まで世界であつた出来事を実際にそれがあつた地に踏み入り実感して行きたいと思いました。

裏面につづく... ➡

## スクールカウンセラーについて

みなさんの悩みを相談できる機会を設けています。  
場所は本校南舎1階の「ほっとプレイス(教育相談室)」です。

### 【今後の予定】

1月23日(木) 16:20~18:20 ※今年度最後です。

※予約制です。担任または相談室に気軽に声をかけてください。



## 人権 LHR の感想

ナチスの蛮行は元々知っていたけれど、1人の人物にフォーカスを当てるとより詳しく当時のことを知れた。当時の惨劇は、人の行いとは信じがたいが、それが現実起きたのだからびっくりだ。まだ世界は平和とは言えない。明日の平和は約束されていない。だが人間は言葉が話せる。通じ合える。手を取り合い、お互いの長所も短所も受け入れられる穏やかな心をもってすれば、きっと戦争はなくなるだろう。僕らは、ひとりひとり違う個性、考え、夢がある。当たり前です。すぐには互いに和解し合うのは無理かもしれない。歴史を繰り返さないために、過去の人々を反面教師にすべきと考える。人間は生まれつき悪い心を持っているわけではない。戦場に立つ人が、本来の優しい心を取り戻し、戦争は愚行なんだと自覚してくれるとありがたい。世界中の争いが消えるのを心から願う。

責任は全ての人にあるという言葉がとても印象に残った。直接的にも間接的にも戦争に加担している。差別も、一部の偉い人の影響であれ、影響されてしまう一般の人がいる。傍観して知らないふりをしている一般の人がいる。そんななかで困っている側の人へ手を差し伸べる、その一歩を踏み出す勇気、優しさ、それらを持つ人が本当に強い人なのだと感じた。

このような過去があったことを改めて痛感して戦争はあってはならないものだと思った。今現在も無くならないのは過去を過ちだと思わず改善をしようもしてないからだろう。戦争の責任は偉い人だけでなく一般人にもあるだろうと言うアンネ・フランクの考え方には今も納得できてないけど当時生きていたらそう思っていたかもしれない。平和な世の中で生きられているからこそ分からないこともあると客観的に物事を考えることは大切だと感じた。

アウシュヴィッツ強制収容所という名前は聞いた事がありましたが、そこで何が行われていたのか詳しくは知りませんでした。今日話を聞いて、多くのユダヤ人が殺されたこと、一人一人に物語があったこと、私たちと何も変わらない人間だったこと、気付かされたことが沢山ありました。私たちは当時を過ごした本人に話を聞くことは出来ません。実際に起こったことを忘れないように、記憶が廃れないように受け継ぐことはできる、そのような活動を続けている方々に感謝したいです。

一つの写真、一箇所を抜粋した文章から本当に色々なことを考えさせられました。アウシュヴィッツ収容所はいきなりつくられたのではなく、いくつもの積み重なりがあつてつくられてしまったことがわかりました。今まで、どこでヒトラーを止められることができたらこんな虐殺は起きなかったのか、戦争は起きなかったのか考えたことはありませんでした。歴史を知る、学ぶということはこれからの世界を平和であり続けるようにするために教訓としてとても大切なんだということに気がつくことができました。

人権の講話と聞いていて、いじめはいけない系の話だと思っていたので思っていたのとはかなり違いました。でも、世界規模の話でありながらも、人間は集団になるといじめが起きる、すべての人が関わっていて責任があるなど、いじめの本質的なものを教えていただいたような気がしました。いじめを止めるのは難しく、人ごとと捉えたり、自分はやってないからと思ったりしてしまいがちですが、先生の NPO の目標にあった「ひとりひとりを大切にする社会」を、理念にして、正しい判断と行動が行えるようにしたいと思いました。また、過去の過ち(日本を含めて)に目を背けることなく自分が過ちを繰り返すことがないような行動を、とれるといいと思いました。

問いを作った時、一般人になんで責任があるのかって思ったけど、今回の講話を通して一般人にも責任があったんだと感じました。自分が違うことだと思った時には声を出した方が、もしかしたら誰かを救うことが出来るかもしれないと思いました。

すべての人が、ともに学び、ともに考え続けられる世の中でありますように。✨